



TITLE:

観測用印刷物 (年末研究特集号)

AUTHOR(S):

CITATION:

観測用印刷物 (年末研究特集号). 天界 1943, 23(269): 389-389

ISSUE DATE:

1943-12-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168680>

RIGHT:

分に測定が出来る。古今の分點を比較して見て、數多くの望遠鏡的微光星が此の星群の運動と同じものを示すことが譯つた。又、既知のメンバの表は百個以上にまで増加した。

其の中には星團中の最輝星の何百萬分ノ一といふ微光なものもある。星群のメンバの凡ては、殆んど同距離にあるので、之らの見掛けの明るさの變化は個々の星の光度、即ち、空間に放射する光の星の變異を現はす。斯く、牛星團は恒星の光度及び色彩、スペクトル型或は溫度との關係を研究する特別な機會を與へて呉れる。斯様な關係があるといふ事は勿論實證されて居る。比較的明るいメンバは、シリウス星の様に大概白青色の星であり、高溫度である。比較的淡いメンバになると、色彩は漸次黃色や赤色に變る。淡い方のメンバの比較的光度が淡いのは、大きさが小さいと同様に、溫度が低いに相違ない。又、矮星であるに違ひない。斯く機構から謂へば、此の星團の星は一連の溫度と光度の減少する星となり、又、此の秩序は恐らく星の進化論上に連續した段階に等しい。然し、此の星團は此の組に適合しない4個の明るい星を含んで居るし、赤味がかつた色彩と大光度であるが、比較的低い溫度と關係してゐる。恐らく極めて大きな直徑の巨星であるに相違ない。

牛星團の空間速度は寧ろ肉眼星の平均速度以上に大きい。太陽と相對的な運動の觀測は、星團と太陽とが、銀河系の自轉に参加し、大きな軌道を描いて遠方の中心の周圍を公轉してゐるといふ事實を示すものと思はれる。この2つの軌道は少しく違ふので、此の星團と太陽は漸次離れて行くことが知れる。極めて驚嘆すべき事は、天空上全く異なつた位置にある幾つかの他の星團が、凡て同様な機構のもので、牛座の星の特別な空間運動に伴伴してゐる様に見えることである。之らの中、最も著名なのは蟹座のプレセペ星團である。

(A. S. P. L., 58—佐登兒譯)

觀 測 用 印 刷 物

(下 各々2組並6枚まで4錢)

○太陽黑點報告用紙	(一枚 3錢)
○太陽面經緯度圖 (第1—8圖)	(一組 100錢)
○流星觀測用星圖 (第1—5圖)	(一組 15錢)
○流星觀測報告用紙	(一枚 3錢)
○變星觀測用星圖	(一枚 5錢)
○變星觀測報告用紙	(一枚 2錢)
○黃道光觀測用星圖	(一枚 3錢)
○黃道光觀測報告用紙	(一枚 2錢)
○木星スケチ用紙	(一枚 5錢)
○火星スケチ用紙	(一枚 5錢)